

小林寛伊 監修/賀来満夫・金光敬二 編集

書 評

病院感染 こんな時どうする!? 中小病院/診療所編

木村 哲(国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センターセンター長)

病院感染は compromised host の多い大きな病院に多く、大病院ほど注意が必要と考えられているが、実際には病院の規模に関係なく中小病院・診療所でも、しばしば深刻な病院感染のアウトブレイクが起こっている。そのような事例を眺めてみると、中小病院・診療所では病院感染は少ないから大丈夫との安心感からか、対策が不十分と思われる場合が少なくない。

医療機関の規模にかかわらず、病院感染対策は医療の質にかかわる重要な要素であり、患者さんに安全で安心な医療を提供するためには不可欠な要素でもある。中小病院・診療所ではいったん、病院感染のアウトブレイクが起こると、その打撃は甚大であり、病院・診療所の経営そのものを揺るがすことになりかねない。

中小病院・診療所であるからといって、大病院の病院感染対策と本質的に変わるところはないが、病院感染の予防対策や鎮静のための介入方法には、その規模にあった、効率的で簡便な方法も考えられる。

本書は病院感染対策の重要事項につき基本的な考えかたを要領よく、かつ判りやすく簡潔に記述した後に、それぞれの項目に関連したシミュレーション事例を Question として提示し、明快な対応策を Answer で示すとともに、その理由を「感染制御医の考えかた」として、中小病院・診療所の観点に立って、判りよく解説しているのが特徴である。しかも、具体的な事例に基づいて解説されているため、感染対策の教科書やマニュアルを読むよりは格段に判りよく、よく身につくように工夫されていると感心した。他に類をみない良書ではないだろうか。

中小病院・診療所で感染症専門医や感染制御ドクター(ICD)、感染管理ナース(ICN)が常勤していないことがあっても、この本1冊を常備して活用すれば、たいていの病院感染を十分コントロールできるのではないだろうか。医師にとっても看護師にとっても重宝な解説書である。

(B5判 138頁 定価2,940円(本体2,800円+税5%))
2005年 南山堂 刊